

製品名: I-FABP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12370**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	15kDa

抗原情報

遺伝子名	FABP2 FABPI
別名	Fatty acid-binding protein, intestinal (Fatty acid-binding protein 2;Intestinal-type fatty acid-binding protein;I-FABP)
遺伝子 ID	2169.0
SwissProt ID	P12104
免疫原	アミノ酸配列範囲: 90~132 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

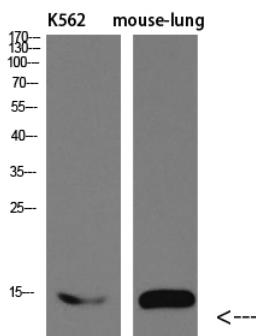
細胞内脂肪酸結合タンパク質 (FABP) は、約 20 種類のメンバーが同定されている多重遺伝子ファミリーに属します。FABP は、少な

くとも肝臓型、腸管型、心臓型の3つの異なるタイプに分類されます。これらは14~15 kDaのタンパク質を形成し、長鎖脂肪酸の取り込み、細胞内代謝、および/または輸送に関与すると考えられています。また、細胞の成長と増殖の調節にも関与している可能性があります。腸管脂肪酸結合タンパク質2遺伝子は4つのエクソンを含み、小腸上皮細胞に豊富に存在する細胞質タンパク質です。この遺伝子は、コドン54にアラニンをコードする対立遺伝子とスレオニンをコードする対立遺伝子の多型性を有しています。Thr-54タンパク質は、脂肪酸化の増加とインスリン抵抗性と関連しています。[RefSeq 提供、2008年7月]、ドメイン：内部に疎水性リガンドを収容するβバレル構造を形成する。機能：FABPは、長鎖脂肪酸とそのアシル CoA エステルの細胞内輸送に関与すると考えられている。FABP2は、トリグリセリドに富むリポタンパク質の合成に関与していると考えられる。飽和長鎖脂肪酸とは高い親和性で結合するが、不飽和長鎖脂肪酸とは低い親和性で結合する。FABP2は脂質センサーとして機能することで、エネルギー恒常性の維持にも関与している可能性がある。誘導：EGFによる。類似性：カリシンスーパーファミリーに属する。脂肪酸結合タンパク質(FABP)ファミリー。組織特異性：小腸で発現し、大腸でもはるかに低いレベルで発現する。最も高い発現レベルは空腸である。

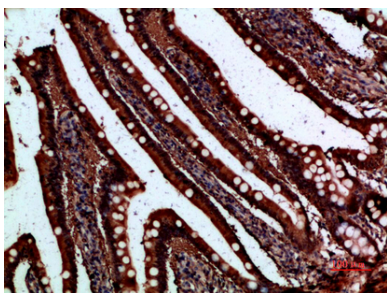
研究分野

PPAR;

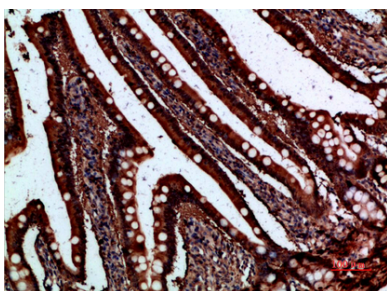
画像データ



マウス脳脊髄溶解液のウェスタンブロット分析、抗体は2000倍希釈。二次抗体は1:20000倍希釈。



パラフィン包埋ヒト小腸の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された。



パラフィン包埋ヒト小腸の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された。

